

波江入楚

すむ

				二	和
				七	書
				九	門
				一	
				一	類
				號	
				函	
				七	
				架	
				一	
				八	
				冊	
				五	
				四	

				三	和
				函	書
				五	
				四	
				冊	
				九	
				架	

内閣文庫	
番號	和 27911
冊數	54 (38)
函號	203 28





寶曆十三年



於虫

五ノ歳

意ニ来

物語

引馬文庫

入道宮 夏供養持佛

入道宮位ニ来文給

秋入道宮ニ来院寢殿秋所放坐

十六夜入道宮

和虫於虫 品定夏

名冰口文大均志等来文所方給

源氏左大臣等給事

同夜於虫院於虫所於虫院則泰次泉給

有和字作文真

云来院於虫所方所物

中宮六條院為所書下所給事

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

唐の徳の... 唐の徳の... 唐の徳の...

天曆九年正月四日村上天皇与母

后般供衣衣兼法衣有八条

廿三日^秘の^秘河持後人 祇源氏の^秘りも^秘か書^秘り^秘

こま^秘に^秘せ^秘ら^秘え^秘ん^秘中^秘

源^秘之^秘廿三日^秘こ^秘ま^秘ら^秘り^秘ら^秘は^秘く^秘成^秘り^秘か^秘り^秘り^秘

け^秘と^秘か^秘ら^秘ん^秘こ^秘 あり^秘と^秘後^秘れ^秘と^秘源^秘中^秘書^秘り^秘り^秘も

け^秘も^秘ら^秘り^秘ひ^秘め^秘ら^秘り^秘 計^秘又^秘皆^秘合^秘り^秘

そ^秘の^秘こ^秘ら^秘ん^秘か^秘り^秘り^秘 せ^秘ら^秘ひ^秘ら^秘る^秘の^秘い^秘り^秘と^秘原^秘の

善^秘く^秘ら^秘り^秘ら^秘り^秘り^秘

ら^秘こ^秘ら^秘り^秘ら^秘ん^秘の^秘中^秘ら^秘り^秘ら^秘は^秘け^秘ら^秘え^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

と^秘り^秘ら^秘り^秘ら^秘ん^秘の^秘中^秘ら^秘り^秘ら^秘は^秘け^秘ら^秘え^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

況^秘然^秘是^秘礼^秘 況^秘然^秘是^秘礼^秘

中々あつていひしをいふるも

秘 ちよと懐かしくとや〜

ふ〜の〜の 法抄あし只きつ〜

か〜の〜の 秘 海況〜人〜い〜か〜と懐かしくと

人のあ〜い〜い〜い〜

といふあ〜の〜の 秘 女三女の〜の人〜い〜い〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 女三宮皇母の御

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 美〜の〜の〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 秘 女三女三の御

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 秘 女三女三の御

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 秘 女三女三の御

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 秘 女三女三の御

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 秘 女三女三の御

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 秘 女三女三の御

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 音信

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

てしよらあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

三原のまね
今法圓子回祓長念

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

尾崎
十人

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

あかあかあかあか
あかあかあかあか
あかあかあかあか

水音のしるしをきくもあつたる 曾阿久又言はるる

秋は去るの心いつくしきまに 秋の終り
申すの心もあつた人 秋は申すの心もあつた

秋はくはるる 秋はくはるる

あつた あつた

えん えん

あつた あつた

廿三
女三

あつた あつた

あつた あつた

あつた あつた

廿三
女三

あつた あつた

あつた あつた

あつた あつた

あつた あつた

あつた あつた

かきとるふあふりて

大ゆい君と名と人のあつたを

花中しにつきあふる人いふ

ツ音とくくくくくくくく

こるいおあふりてあふりてあふりて

女三女のこころ

いとつぎくくく

物志者なきうきうきうきうき

深のこころをいふあふりてあふりてあふりて

こころ

月が所前くくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

於遠東有

これこころにあらんか

又くくくくくくくく

月がこころ

何れも月とね秋にた

こころ

三五夜中新月也

有獲大概言

初めゆりてあふりてあふりて

斗

初云

初云の外

初云の外

初云の外

初云の外

初云の外

初云の外

初云の外

初云の外

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

いふは月夜をよむとていふも

いふは月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

月夜をよむとていふも

寂寥おとし不飛

トウ...

五衣布袴

五衣州上病に五衣下着下袷袷使ふる

初冬に深衣と云ふ人多し二人にひとりぬす

布ねとつとなくくくくくくくくくくくくくくくくく

あきもな中...

うる... 深衣袷と不し...

そく人... 深衣の...

袷... 深衣の...

深衣... 深衣...

かくえのぬ...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

中衣...

あき... 深衣...

行末... 深衣...

深衣... 深衣...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

あき... 深衣...

あま秋のののの海をみく

つれづれにわたりまじりて
清原のつらき秋をみくもあまの秋をみく

秋秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

秋秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あまの秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あまの秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あまの秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あまの秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あまの秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あまの秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あまの秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あまの秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あまの秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あまの秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あまの秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あまの秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あまの秋のののの世 あま秋の 人ののののの世に
あまの秋のののの世といふとん あま秋の

あつらひしり

源しころふ

源氏と出家の心

初秋あつらひしり

あつらひしり

初秋あつらひしり

あつらひしり

源の心

あつらひしり

あつらひしり

あつらひしり

あつらひしり

初秋あつらひしり

あつらひしり

あつらひしり

あつらひしり

あつらひしり

あつらひしり

あつらひしり

初秋あつらひしり

あつらひしり

源の心

あつらひしり

あつらひしり

あつらひしり

あつらひしり

あつらひしり

あつらひしり



